【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成27年3月19日(2015.3.19)

【公開番号】特開2013-116117(P2013-116117A)
【公開日】平成25年6月13日(2013.6.13)
【年通号数】公開・登録公報2013-030
【出願番号】特願2013-19531(P2013-19531)
【国際特許分類】
Ａ２３Ｂ　4/12　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　3/3508　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/315　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ２３Ｂ　4/12　Ｚ
Ａ２３Ｌ　3/3508
Ａ２３Ｌ　1/315

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年1月28日(2015.1.28)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１７】
［１６］　該混合過カルボン酸組成物が過酢酸と過オクタン酸を含むことを特徴とする［１５］に記載の方法。
［１７］　空気冷却が気体状又は高密度化された流体の抗菌組成物を使用するステップを含む［１５］に記載の方法。
［１８］　更に、家禽を活性化された光に曝露するステップを含む［１］に記載の方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
［３１］　該リサイクルされる混合過カルボン酸組成物が、１つ以上の２～６個の炭素原子を有する過カルボン酸と、１つの７～１２個の炭素原子を有する過カルボン酸を含むことを特徴とする［３０］に記載の方法。
［３２］　処理の際家禽上の微生物集団を減らす方法であって：
処理の際微生物集団を減らすのに充分な量と時間で家禽を気体状又は高密度化流体の混合過カルボン酸抗菌組成物と接触させるステップを含む方法。
［３３］　前に家禽に対して使用された水をリサイクルする方法であって：
前に家禽に対して使用された混合過カルボン酸抗菌組成物を回収するステップ；及び
該回収された組成物に充分な量の過カルボン酸の混合物を加えてリサイクルされる混合過カルボン酸抗菌組成物を生ずるステップ；を含む方法。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３７

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３７】
ここで用いる場合、"高密度化流体"というフレーズは、臨界、亜臨界（subcritical）、近臨界（near critical)、又は超臨界状態にある流体を指す。流体は、一般に、１気圧で０℃という標準状態にある気体である。ここで用いる場合、"超臨界流体"というフレーズは、臨界温度（それより上では圧力によって液化できない温度）より高い温度に維持される高密度気体を指す。超臨界流体は、普通、液体よりも粘度が低く、容易に拡散する。高密度化流体はその臨界点に、それよりも上に、又は少し下にあることが好ましい。ここで用いる場合、"臨界点"というフレーズは、ある物質の液体状態と気体状態が融合した遷移点であり、臨界温度と臨界圧力の組み合わせを表す。臨界圧力は、臨界温度で２つの相をちょうど出現させるに充分な圧力である。臨界温度及び臨界圧力は多数の有機及び無機化合物、及びいくつかの元素、について報告されている。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５８】
上記の各組成物は、記載された構成成分を組み合わせることによって調合できる。更に、酸と過酸の両方を含む組成物のいくつかは、酸と過酸化水素を組み合わせ、過酸を形成させることによって調合できる。普通、平衡混合物のpHは約１又は約２より低く、平衡混合物を水に溶かした１％溶液のpHは、１％溶液のその他の成分によるが、約２～約７であり、使用組成物のpHは、他の成分によるが、約４～約７である。
他の流体組成物
本発明は、臨界、近臨界、又は超臨界（高密度化された）流体と抗菌剤を含む抗菌組成物又は抗菌剤の気体組成物を用いることができる。濃縮された流体は、近臨界、臨界、超臨界流体、又は超臨界流体の性質を有する別のタイプの流体であってもよい。濃縮化に適した流体としては、二酸化炭素、酸化窒素、アンモニア、キセノン、クリプトン、メタン、エタン、エチレン、プロパン、いくつかのフルオロアルカン（例えば、塩化トリフルオロメタン、及びモノフルオロメタン）、など、及びそれらの混合物、がある。好ましい流体は二酸化炭素などである。抗菌組成物は、また、他の成分、例えば別の流体又は気体；キャリア、溶剤又は共溶剤；酸化剤；脂肪酸；又はそれらの混合物、を含むことができる。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５９】
高密度化された流体システムと共に用いられる抗菌剤は、種々の食品表面に適合する抗菌剤、例えば、１つ以上の過カルボン酸、第４級アンモニウム抗菌剤、酸消毒剤、それらの混合物、及びその他の食品表面に適合する抗菌剤、のいずれであってもよい。本発明の方法で用いることができる好ましい高密度化流体抗菌組成物は、濃縮された二酸化炭素、過酢酸、過酸化水素、酢酸、過オクタン酸、及びオクタン酸を含み、これは高密度化流体混合過カルボン酸組成物と呼ぶことができる。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６１
【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【００６１】
高密度化流体抗菌組成物は、当業者に公知のいくつかの方法のいずれによっても使用できる。このような方法は、高密度化流体と抗菌剤を入れた容器から家禽の死体又はその部分に排出するステップを含む。過酸化水素を含む水性の相は装置内に有利に保持される。排出された気体は効果的な量の抗菌剤を含み、高密度化流体過カルボン酸組成物を効果的な抗菌剤にする。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６２】
本発明の高密度化流体組成物は高圧の性質を有するので、これらの組成物は普通、家禽死体又はその部分を迅速に効率的にカバーするように設計された減圧デバイスを通して組成物を入れた容器から排出させることによって使用される。このような減圧デバイスを含む装置としては、スプレー装置、噴霧器、発泡装置、フォームパッド塗布装置、ブラッシ塗布装置、又は流体物質を高圧から周囲圧力に膨張させてそれを家禽死体又はその部分に塗布することができるその他の装置、が含まれる。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６３】
高密度化流体過カルボン酸組成物はまた、特に家禽に水を加えることが不利であるステップで、家禽の処理の際に気体の物質を吹きつけるために公知の種々の方法のいずれかによって、例えば空気冷却とパッケージング（例えば、変形大気パッケージング）によって、家禽に使用することができる。気体状の過カルボン酸組成物を吹きつけるのが適当な家禽処理における他のポイントとしては、不活性気体処理、二酸化炭素スタンニング、などを含むステップがある。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６４】
高密度化流体抗菌組成物は、高密度化流体を含む媒質中で酸化可能な基質を酸化剤と反応させて抗菌組成物を形成することによって作ることができる。この反応は、普通、高密度化流体を入れるのに適した容器内で行われる。反応させるということは、容器に酸化可能な基質と酸化剤を入れ、流体を容器に加えて高密度化された流体を形成することを含む。好ましい反応システムは、カルボン酸と過酸化水素の間で反応させて対応する過カルボン酸を形成するものである。普通、過酸化水素は過酸化水素の水溶液の形で供給される。好ましいカルボン酸は、酢酸、ヘプタン酸、オクタン酸、ノナン酸、及びそれらの混合物である。
【誤訳訂正１０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１１２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【０１１２】
本発明に従って、空気冷却は過カルボン酸抗菌組成物を用いて、好ましくは本発明の組成物を用いて行うことができる。例えば、空気冷却組成物は、気体状の又は高密度化された流体の抗菌組成物を含むことができる。
【誤訳訂正１１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１１３】
冷却の後、鳥は更に、計量、品質格付け、割り当て、切り分け、骨抜き、などさらなる処理ステップで処理される。このさらなる処理も、混合過カルボン酸組成物による洗浄に関して本発明の方法又は組成物を含む。例えば、鳥を切り分けて形成される家禽の部分、例えば足、むね、手羽、などを洗浄することは有益である。このような切り分けによって、新しい肉、皮、又は骨の表面ができ、又は現れ、それは汚染しているかもしれないので抗菌組成物による処理が有益である。同様に、家禽死体又は家禽死体の部分の骨を抜くことによって、肉又は骨の新しい表面が微生物汚染にさらされる。骨を抜かれた家禽死体又はその部分を混合過カルボン酸組成物で洗浄することによってこのような汚染を有利に減らすことができる。更に、その後の処理の際にも、骨を抜かれた肉が、例えば汚染した表面で、微生物と接触する可能性がある。骨を抜かれた肉を混合過カルボン酸組成物で洗浄することによってそのような汚染を減らすことができる。洗浄は、スプレー、浸漬、転がし、又はそれらの組み合わせ、又は気体状又は高密度化流体の抗菌組成物を吹きつける（apply）ことによって行うことができる。
【誤訳訂正１２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１１５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１１５】
家禽、家禽製品、家禽部分、家禽副産物、などは別の処理、別の処理業者、市場へ、又は消費者へ送る前に包装さレベルことがある。このような家禽は、水をベースとする混合過カルボン酸抗菌組成物で洗浄して、その後それを家禽から除去する（例えば、排水、送風、又はふき取り）ことができる。場合によっては、包装の前に家禽を濡らすことは不利になる。このような場合、過カルボン酸抗菌組成物の気体状又は高密度化流体の形を用いて家禽の微生物汚染を減らすことができる。このような気体状組成物は、パッケージングの前又はその間に家禽を気体にさらすための公知の種々の方法で、例えば、変形大気パッケージング（modified atmosphere packaging）によって、用いることができる。
【誤訳訂正１３】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項２】
処理の際家禽上の微生物集団を減らす方法であって：
処理の際微生物集団を減らすのに充分な量と時間で家禽を気体状又は高密度化流体の混合過カルボン酸抗菌組成物と接触させるステップを含む方法。